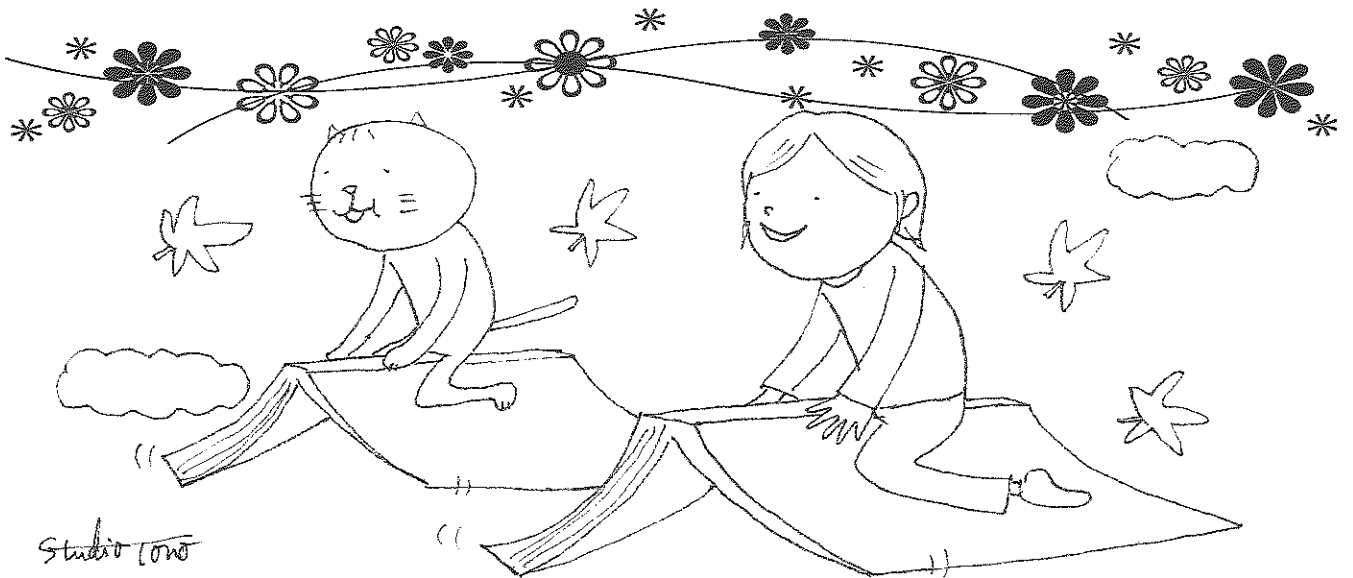


ボランティアグループがつくる和歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本よんだ？

～りいふる BOOK プラス～



香川 綾の歩んだ道

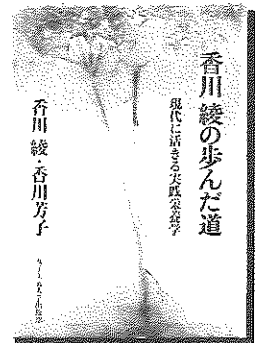
香川綾・香川芳子 著 女子栄養大学出版部 2008年 (J:自伝・評伝)

香川(旧姓 横巻)綾は、1899年(明治32)和歌山県本宮に生まれるが、警察署長をしていた父の転勤のため、古座、加太、湯浅で子供時代を過ごし、紀州藩食膳係の父をもつ母の美味しい料理をたべ育った。和歌山師範学校を卒業し、教師となるが、医師になる夢をあきらめられず挑戦。東京女子医学専門学校を卒業後、同じ和歌山出身の縁で東京帝国大学医学部・島園順次郎内科に入る。

当時、脚気が流行り、食事が原因ではないか？という推測のもと、ビタミン研究が主流だったが、島園研究室は胚芽米の研究をしていた。綾は女性であったため助手しかさせてもらえなかったが、島園教授より料理・栄養面から探ることが必要ではないかと研究課題を与えられ、研究に励んだ。そのことが、病気にならない健康な食事を考える「栄養学」という学問をつくりだすきっかけとなる。誰でも料理できるよう料理レシピ・計量カップ・スプーンを考案した人でもあり、昭和48年には和歌山県文化表彰を受賞した。

この本は、何度も書き換えられた自叙伝の最後にあたるもので、不足部分を娘の芳子が記述している。和歌山の女性モデルとしておもしろい人物だと思い今回とりあげてみることにした。

(か)



さよなら！ハラスメント 自分と社会を変える11の知恵

小島慶子 編著 品文社 2019年 (D:女性・子供に対する暴力)

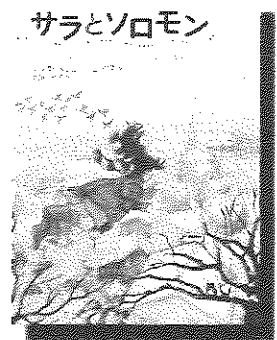
**SAYON
HARA!**

本書は、編著者である小島慶子さんが、11人の識者に様々なハラスメントについて尋ねる形式で書かれています。セクハラ、パワハラ、いじめやいじりといったことに関して、11人それぞれの専門に応じて深く議論されています。読み進めると、私は、ハラスメント行為に対して、ときに傍観者、さらに加害者でさえあったかもしれない自分に気付かされました。本書は、それでも一人一人がこれから行動を変えればよいのだと背中を押してくれます。かつてはハラスメントを許容、あるいは、仕方がないと受け入れていた。しかし、もうやめようと声を上げる。そういった一人一人の行動がハラスメントのない世の中を作っていくのでしょうか。ハラスメントへの理解が深まり、将来への希望が持てる本です。ぜひ読んでみて下さい。(A.T.)

サラとソロモン

イター&ジョリー・ヒックス 著 加藤三代子 訳 フォルジブリティ 2005年 (K:エッセイ・文学)

小学生の少女サラは、周りの人と仲良く、楽しく過ごしたいと思っているのに母親や先生には叱られ、クラスメイトからはバカにされ、気がつくたびに息。「あーあ、私も空が飛べたらなあ」とつぶやくサラに、ある日不思議なことが起きます。なんと、街で時折見かけていたフクロウが語りかけてきたのです。「今、自分が何を感じているかに注意を向けて、良い気持ちにする考えを選ぶ」フクロウのソロモンは、この一見シンプルで実はとても奥が深い原則をサラに色んな経験を通して学ばせてくれ、次第にサラは成長していきます。



読んでいて、サラに自分を重ね合わせ「僕は『今』を楽しめているかな」と立ち止まって感じ取ろうとする習慣が付き、行動の指針になりました。「これは、楽しませると同時に教える本である」と記す著者からの、厳しくも温かいメッセージが詰まった本です。(やっくん)

定年女子 これからの仕事、生活、やりたいこと

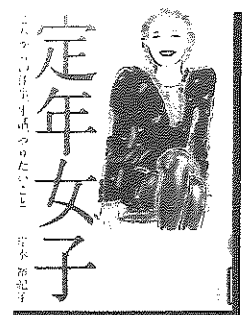
岸本裕紀子 著 集英社 2015年 (B:労働・法律)

自分の退職後にこの本と出会った。ズバリ！退職前に読んでおきたかった本だ。退職を考えている女性達。これを読んで後悔のない新しいステージに立ちましょう。

かつて定年後は老後と言われていたが、そうではない。75歳くらいから始まりそんな老後を迎える前の貴重な約15年である。

本書は50代、60代の仕事をしてきた女性達を取材し、リタイヤについてまとめたものだ。定年後も働きつづけるのか、自由に生活を楽しむのかである。どちらにせよ、退職前に準備していた人は強い。リタイヤ世代の生き方のヒント、挑戦、熱い思いが詰まっている。

今後は、働き方も定年のあり方も変わっていくだろう。退職後もみんなが前を向いて堂々と人生を歩んでいる。定年女子、まだまだいけるのであると記している。(はんちゃん)



漁港の肉子ちゃん

西加奈子 著 幻冬舎 2011年 (K:エッセイ・文学)

漁港の焼肉屋「うをがし」で働く「肉子ちゃん」。出だし数ページで「肉子ちゃん」に笑われるだろう。しかしこの物語はただ「肉子ちゃん」が面白いだけの話ではない。

語り手は肉子ちゃんの娘。彼女は肉子ちゃんに振り回されて、少しだけ特殊な環境に生きている。でも普通に子供らしい感性を持っている小学五年生だ。

彼女の空想物語と生々しい人間関係が重なる語り口。短編小説のような細切れのエピソードでゆるやかな日常を描いていくのかと思いきや、ラストに向かっての怒涛の展開に、最後の1ページまでバーチャル体験しているかのように自然と映像化される。

既にアニメ映画化が決定しているが、是非、映像作品になる前に一読して「漁港の肉子ちゃん」を「体感」してほしい。

(菊山)



時局発言！ 読書の現場から

上野千鶴子 著 WAVE出版 2017年 (A:フェミニズム)

本書は著者が2012年から2016年の約4年の間、毎日新聞のコラム「読書日記」に書いた書評を編集したものである。著者の活動と主張を込めながら、1編の書評の中で3冊程度の本を取り上げて紹介している。全7章からなり、各章ごとにテーマを分けて再編している。第1章は「社会を変える」。以下、第2章「戦争を記憶する」、第3章「3.11以後」、第4章「格差社会の中のジェンダー」、第5章「結婚、性、家族はどこへ?」、第6章「障、老、病、異の探求」、第7章「ことばと文化のゆくえ」。

どのテーマも現代の問題を捉えたものだ。興味のある章から読んでいってもいい。切れ味鋭い著者の主張を軸に、関連する本を紹介しているので、読者は読んでみたいという誘惑に駆られるだろう。

自身が関わった本も多く紹介されているのだが、著者が帯に紹介文を書いている書籍の多さにも改めて驚かされた。

(O.S)



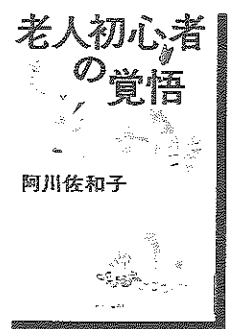
老人初心者の覚悟

阿川佐和子 著 中央公論新社 2019年 (K:エッセイ・文学)

本書はテレビ「佐和子の朝」で有名な著者が、『婦人公論』の巻末エッセイに3年間掲載したものをから選び一冊にしています。

自動車の運転免許証を取得したとき、初心者用若葉マークは安全運転の為に必ず車につけなければならないが、65歳を超えた著者は自らの「老人初心者」マークを人目につかない心の中につけて、日常生活の何気ない場面で、自分の年齢を自覚したり、持ち前の達者な口で若返ったり…、読む側が引き込まれそうで笑ってしまう場面もあり、楽しく読み進む事が出来る一冊です。

(すず子)



シズコさん

佐野洋子 著 新潮社 2008年 (K:エッセイ・文学)

代表作「100万回生きたねこ」の著者である佐野洋子の家族の物語。子供のころ暴言暴力を受けた著者は母「シズコ」を嫌いになり、長じても何一つ意見が合わず、すさまじい反抗をずっと続けてきた。母が92歳で亡くなる直前までのこの母娘の確執を底流に、佐野一家の波乱万丈が描かれている。

佐野一家の構成は洋子、両親、弟妹4人(7人生まれたが3人死亡)。戦前北京に住み、敗戦で引き揚げてきた時、31歳の母はすでに5人の子持ちだった。後、帝大出のインテリ父親が50歳で病死すると、42歳だった母「シズコさん」は奮い立ち、就職し、6年後には家を建て、4人の子ども皆を大学へ行かせた。

いつも厚化粧、完璧な身づくろい、料理、家事能力抜群、頑丈な体、タフな精神の母親を著者は好きになれず、どうしても優しくできない。そういう自分を責めてもいた。ずっと自責の念から解放されない苦悩を抱いていた。

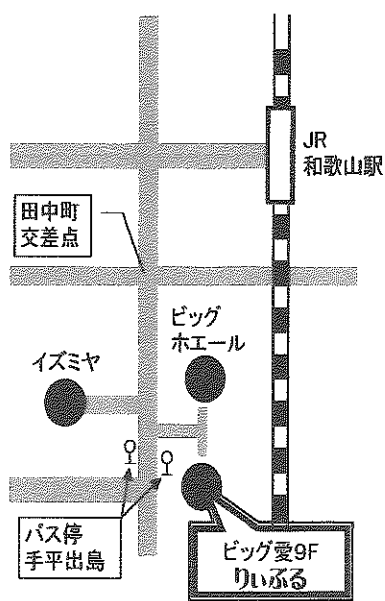
80歳ごろに高級老人ホームに入居した母は少しずつ呆けて穏やかで優しい人になっていった。そしてある日一生口にしなかった「ありがとう」を言った。一緒に子守歌を歌いながら著者は感極まって、「ごめんね、私悪い子だったね、ごめんね」と号泣してしまう。50年の余、自分を苦しめていた自責の念から解放された涙だった。(大空)

シズコさん
佐野洋子



※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第21号 (2020年10月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】

前号20号印刷のころより、コロナの話がでだした。りいぶるぶらすは活動をはじめて10年ぐらになるが、もとよりあまり集まらなくても良い方法をさぐり、インターネットによる連絡・原稿のやりとりを中心にしていたので、今号の作成にあたっては、最悪集まらなくてもできるだろうという予測のもと、動いてきた。幸い、りいぶるの図書室は貸出しをされていて、原稿の書けるメンバー個人で読書活動、少人数で集まり、原稿作成ができた。早く収束してほしいものです。

★あなたも書評を書いてみませんか? ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。E-mail libreplus@yahoo.co.jp